
BLIZZARD ENTERTAINMENT
OVERWATCH
最後の瞬間まで
JASMINE WALLS
STUDIO389



最後の瞬間まで

OVERWATCH

世界の破滅が迫る中、ヴェンデッタを止めるべくローマに上陸したオーバーウォッチ一行。だが、彼らの行く手にヴェンデッタの切り札ともいえる剣闘士部隊が立ちはだかる…。

作者 JASMINE WALLS　アート&カバー STUDIO389　英語活字デザイン ANDWORLD DESIGN

BLIZZARD ENTERTAINMENT

シニア・ディレクター、ストーリー&フランチャイズ・デベロップメント VENECIA DURAN

シニア・マネージャー、ライティング&ブックス MATTHEW COHAN

エディトリアル・スーパーバイザー CHLOE FRABONI　エディター SHANNON WATTERS

シニア・ブランド・アーティスト SOPHIE ERB

シニア・プロデューサー BRIANNE MESSINA　プロダクション TAKAYUKI SHIMBO, JT TORREA, QIANNAN ZHANG

ゲーム・チーム・コンサルタント JEFF CHAMBERLAIN, MIRANDA MOYER, NESSKAIN, JUSTIN RICHMOND, DION ROGERS

日本語翻訳 WATARU HIRATA

BLIZZARD ENTERTAINMENT Blizzard.com

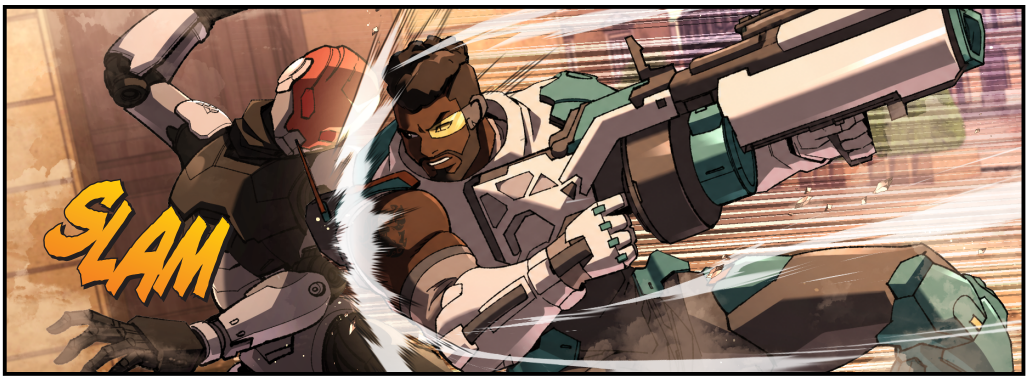
© 2026 Blizzard Entertainment, Inc. Blizzardおよびblizzard Entertainmentのロゴは、米国およびその他の国におけるBlizzard Entertainment, Inc.の商標または登録商標です。

Published by Blizzard Entertainment.

本作品はフィクションです。本作品に登場する名前、キャラクター、場所、出来事は、著者または作画者の想像による産物または架空のものです。実在する人物（存命中または故人）、出来事、団体、場所に類似するいかなる描写も、風刺的な意図はなく、偶然によるものです。
Blizzard Entertainmentは著者や第三者のウェブサイトまたはそのコンテンツを管理しておらず、それらについて一切の責任を負いません。

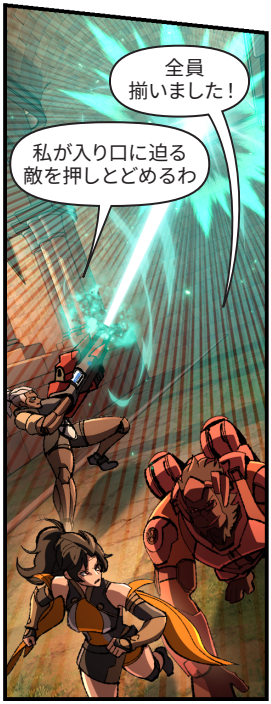

イタリア、ローマ
タロンには
これまでずっと
何手も遅れてきた
作戦内容を
復唱するわ
でも、この劣勢も――
いえ、もしかしたら
すべてがここで終わる
“チーム1は
市民をできる限り
避難させて
“チーム2は
保管場所を特定次第
EMP爆弾の解除・回収を…
“…チーム3は
私とウィンストン
トレーサーと合流して
敵性戦闘員を無力化…
“…ヴェンデッタの
捜索にあたって”
この作戦に失敗すれば
非難の矛先はすべて
私たちに向けられる
IJCは反撃の余地を
与えてはくれたけど
わずかな過ちも
許さないはず
それに今や
私たちの動向に
世界中が注視している
失敗は
決して許されない


警報装置作動！
ドロップシップに
ミサイル接近中！
ここでの戦いが
私たちの未来を決める
世界を脅威にさらす
タロンをこのまま
指を咥えて見ている
わけにはいかない
まったく失礼しちゃう！
視認するなり
あんな撃ってくるなんて！
コマンダー！
EMP爆弾を
見つけた！
了解、ブリギッテ
爆弾の確保を――
CLICK


SLAM


遅くなったな、コマンダー
どうやら連中は
あんたのことを
一目見ようと必死らしい
熱烈な歓迎には
しっかり応えないとな！




全員
揃いました！
私が入り口に迫る
敵を押しとどめるわ


KA-BOOM
コマンダー!?
マーシー
何かあったの？


問題発生よ
ヴェンデッタ…
部隊の強化に
まるで余念がないわね


“剣闘士部隊”には
一度勝ったんだ
あたしたちならやれる！
ザリア
待って――！
フッ…
!!
FWSHING
うぐっ！
ザリア!!
マーシーとバティストは
ザリアの救護を！
残りは私に続いて！
これ以上
やらせるわけには
いかないわ！


陣形を崩さないで！
一人で戦っても
勝ち目はないわよ！
エージェントたちは
残留したことを
後悔してるのではと
ふと思ってしまう
この戦いを途中で
投げ出す気なんて
あたしにはないよ
あなたなら
わかっているでしょう？
私たちは最後の
最後まで戦いますよ
そうは思っていても
自ら決めた道と
本人の口から聞くまで
不安に思う自分がいる
KRAK
法を破るのは別に
今回が初めてじゃない
世界を助けられるなら本望だ
俺にも戦わせてくれ
やり直すチャンスをくれた
あんたに必ず応えてみせる
雲行きが怪しくなったって
オーバーウォッチを
見放す気なんて
私にはないよ
IJCもここのいい所に
目を向けてくれないかしらね？
チームが必要としてくれる限り
私もここに居続けるわ
オーバーウォッチという
組織の未来ばかりを
模索してた私は
気づいてなかった…
…彼らがずっと
そばにいてくれてたことを
火力を集中させれば
…突破口が
生まれるかもしれない

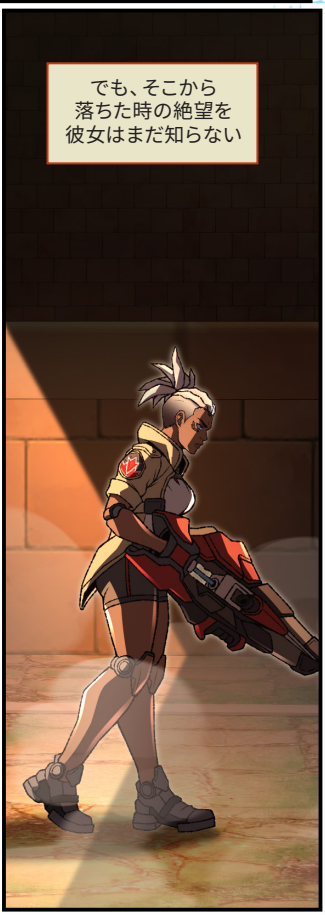

トレーサー、
パルス・ボムを！
了解
ソジョ！
集中攻撃で
生まれた隙を
狙うわよ！
グォッ！
KA-THOOM
効いています！
この戦略が
通用しなくなるのも
時間の問題だ
剣闘士部隊の方が
まだ圧倒的に強い
戦闘が長引けば長引くほど
私たちが不利になる


でも私たちも
世界を救うためなら
すべてを犠牲にする覚悟だ
ここには
監視の目を光らせるIJCも
批評家気取りの
記者やレポーターもいない
いるのは
より良い未来を目指して
自ら立ち上がった
勇気ある者たち


ヴィヴィアン
あとは私たちが
何とかしますから
早くヴェンデッタを！
見捨てる
わけには…！
私たちを
信じてください！
この作戦に失敗すれば
すべてが水の泡になります！
彼らをここまで導いたのは私だ
どんな運命が待ち構えていようと
彼らと最後まで戦い抜かなければ…
旦那の言う通りだよ！
倒すのは無理でも
ヴェンデッタのもとへ
辿り着けるだけの
時間は稼げるはず！
他に方法は
ないって！
たしかに…
二人の
言う通りだ
私たちも
やれるだけのことは
やってみるから！
さあ
早く！


チームが私を
信じるように
私も彼らを信じよう


ヴェンデッタは
暴虐に満ちた世界を
作ろうとしている
許すわけにはいかない
チームが…私が
必ず止めてみせる
ヴェンデッタの
最大の弱点は慢心だ
私にもわかる…
高みから見下ろし
世界の視線を
一身に集めた時の
万能感と高揚は


でも、そこから
落ちた時の絶望を
彼女はまだ知らない


オーバーウォッチは
完璧な組織ではないかもしれない
それでもここに集まったエージェントたちは
みな世界を守ろうと必死に戦っている
私は勝ってみせる…ヴェンデッタにも…
…タロンにも…
…たとえIJCが
解体の判断を下そうとも
世界は希望を求めている…
そして私たちこそが
その希望なのだから
END.